

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら 原木中山教室			
○保護者評価実施期間	2025年 5月 22日 ～ 2025年 6月 14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	2025年 5月 22日 ～ 2025年 6月 14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 6月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・療育環境整備	・スペースを広く取り、配慮も分かりやすくし、のびのびと体を動かす活動を取り入れている。 ・活動の流れを視覚的に示し、見通しが持てるようにしている。 ・清潔で安全な環境を維持でいるよう、日々の清掃や教室環境の整備を丁寧に行っている。	・部屋のレイアウトは子どもに負荷のかからないよう、また効果的に活用できるよう、視覚的・構造的に整備された環境づくりをしていく。 ・他の事業所等の成功事例を積極的に取り入れ、自社に合わせた内容で組み込んでいく。 ・定期的に設備点検・見直しを行い、より安全な環境づくりを行う。
2	・個別支援計画を基にした「適切な支援」「保護者への説明」	・個別支援計画作成にあたり、保護者様からのヒアリング・教室での状況把握、職員間の相互確認・評価をし、子どもの成長を第一に考え、ガイドラインに沿った内容となるよう作成・確認している。 ・個別支援計画の内容に沿った支援ができるよう、支援内容の見直しや日々の子どもの実態や成長の過程等を職員間で共有している。	・個別支援計画の目標設定は具体的な内容で明記し、達成水準等も分かりやすく提示する。 ・子どもの発達に必要な支援が継続的に行えるよう、職員全体が個別支援計画の内容把握をし、職員間での周知・情報共有をこまめに行っていく。 ・必要に応じて目標設定の見直し、成功事例・失敗事例の共有を行っていく。
3	・事業所の支援内容・満足度	・子ども1人ひとりとの信頼関係を大切にし、子どもの興味や好きな遊びを提供＋課題に対する取り組みを合わせて行い、楽しく過ごせる環境づくりをしている。 ・保護者様とのコミュニケーションは、アプリを通して日々の様子・頑張れたことへの内容共有、日常的な報告連絡相談等のやり取りを実施している。	・保護者様が求める情報を整理し、教室運営、職員の教育・研修へと反映していく。 ・職員の療育スキル改善、知識の植え付けを「社内研修」「社外研修」含め実施し、全体の底上げを図っていく。 ・必要に応じて屋外活動を取り入れる等、子どもの実態や保護者様の希望にあったプログラムの実施を検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・家族支援プログラムの実施や家族等が参加できる研修会等の機会が不足している。	・家族的な支援を希望される方には、関係機関との連携踏まえ対応しているものの、希望の有無に関わらず、全員に対してのご説明・環境提供等ができていない。	・定期的面談・個別支援面談・送迎時に、希望等を収集し、ご家庭に合った支援プログラム提供を進める。 ・時間の取れない方へは、アプリ・連絡帳等を活用し、日常的なコミュニケーションだけでなく、情報提供等を積極的に進めていく。
2	・保護者会や兄弟児向けのイベント等、家族同士・兄弟同士の交流の機会が不足している。	・交流を希望される方、希望されない方では、希望されない方が圧倒的に多い状況であり、希望される方の時間調整も難しく、現実的には一緒に行うことは非常に困難となっている。	・現在のシステムを利用し、チャット的なツールの活用ができないかを検討する。 ・他社事例も積極的に取り入れ、少ない人数単位での実施を検討していく。 ・面談時・日常的なコミュニケーションにより、保護者様の希望される内容を詳細で確認・精査し、自社に置き換えての実施を検討していく。
3	・保護者様に対して、事故防止マニュアルや緊急時対応マニュアル等の説明が不足している。 ・災害時等に備えて必要な訓練の周知が不足している。	・保護者様に向けた提示等は実施しているものの、具体的な内容説明までは至っていない。 ・定期的な訓練は実施しているものの、最低限の回数となっている。また、保護者への周知も不足している。	・契約時の説明、定期的面談時の説明時に時間設定を行い、具体的な内容としての説明を実施していく。 ・定期的にアプリを通じて「事故防止」「緊急対応」等を提示し、確認しやすい環境を作っていく。 ・イベントと合わせて「事故防止活動」「緊急時対応」を組み込み、子どもたちへの理解度を高める。